

99-127

問題文

下表は、喫煙と疾病罹患の要因対照研究の結果を示したものである。この結果に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。ただし、交絡因子、喫煙中断者、追跡不能者はないものと仮定する。

	罹患率（対 10,000 人）	
	喫煙者	非喫煙者
肺がん	414	115
慢性気管支炎	153	85
虚血性心疾患	1,491	994
肝硬変	30	25

注）1日25本以上喫煙する人を喫煙者とした。

1. 相対危険度が最も高い疾病は慢性気管支炎である。
2. 寄与危険度が最も高い疾病は虚血性心疾患である。
3. オッズ比が最も高い疾病は肝硬変である。
4. 喫煙と疾病罹患の関連性が最も強い疾病は肺がんである。
5. 喫煙をやめると、罹患しなくなると想定される人数が最も多い疾病は肺がんである。

解答

2, 4

解説

選択肢 1 ですが

相対危険度とは「 $\frac{\text{「暴露群の発生率」}}{\text{「非暴露群の発生率」}}$ 」です。慢性気管支炎の相対危険度は $\frac{153}{10000} \div \frac{85}{10000} \approx 2$ です。一方、肺がんの相対危険度を同様に計算すると、大体 4 弱です。相対危険度が最も高い疾病は慢性気管支炎では、ありません。よって、選択肢 1 は、誤りです。

選択肢 2 は、正しい記述です。

ちなみに、寄与危険度とは「 $\text{「暴露群の発生率」} - \text{「非暴露群の発生率」}$ 」です。

選択肢 3 ですが

肺がん あり なし
暴露あり 414, 9586
暴露なし 115, 9885

となるので、オッズ比は $\frac{414 \times 9885}{115 \times 9586} \approx 4$ 弱。以下、同様に見ていくと、肺がんがオッズ比が一番高くなります。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

ちなみに、関連性が最も強い、というのは相対危険度が最も高いという意味です。

選択肢 5 ですが

喫煙をやめると、罹患する人数が減る、というのは寄与危険度が最も大きいという意味です。すると、虚血性心疾患が一番多いので選択肢 5 は、誤りです。

以上より、正解は 2,4 です。